

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
---------------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK18178
05-A007
19-A004

### ③施設名等

名称：	光と緑の園 向陽寮
施設長氏名：	宮崎 慶太
定員：	80名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	大村市西大村本町127番地3
T E L：	0957-53-7415
U R L：	<a href="https://hikaritomidori.jp/">https://hikaritomidori.jp/</a>

#### 【施設の概要】

開設年月日	1948/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人光と緑の園
職員数 常勤職員：	31名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称(ア)	児童指導員
上記有資格職員の数：	7名(内1名は社会福祉士)
有資格職員の名称(イ)	保育士
上記有資格職員の数：	19名
有資格職員の名称(ウ)	個別対応職員
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称(エ)	家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員
上記有資格職員の数：	2名・1名
有資格職員の名称(オ)	心理療法担当職員(認定心理士)
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称(カ)	栄養士
上記有資格職員の数：	1名
施設設備の概要(ア)居室数：	50部屋(9ユニットで構成)鉄筋コンクリート造かわらぶき2階建て
施設設備の概要(イ)設備等：	心理療法室・家庭支援相談室
施設設備の概要(ウ)：	自立支援室・親子生活訓練室
施設設備の概要(エ)：	図書室・体育館 他

### ④理念・基本方針

<p>理念：子どもがまんなか、家族を支えるみんなの輪          基本方針：児童福祉行政機関と密接な連携を保ちながら、入所児童の健全な養育に努めるとともに、地域社会と共生する施設となるよう運営の万全を期する。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・被措置児童虐待防止に努める。</li> <li>・小規模化した生活ユニットにおいて、より家庭的できめ細やかな支援に努める。</li> <li>・行事や清掃活動を通じ、地域との交流を図るとともに地域の子育て支援体制の強化に努める。</li> <li>・里親育成センター業務(長崎県からの委託)の協力、支援</li> </ul>
--

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2020/11/10
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2021/3/31
前回の受審時期(評価結果確定年度)	平成29年度

## ⑦総評

### ◇特に評価の高い点

#### 1. 子どもと地域との交流を広げるための取り組み

中・長期運営計画において地域支援の拠点化に努めると明記するとともに、施設の園庭や体育館を地域にも開放し、クラブ活動やよさこいの練習、グランドゴルフ、オータムフェスタなど地域との交流を深め積極的に活動している。また、子どものニーズに合わせて地域の社会資源を示し、個別の買物や困難な子どもに対しては職員が同行し対応している。園庭は広く適切に整備され、子どもの友人が施設に遊びに来やすい環境づくりを行っている。

#### 2. 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動

地域貢献として定期的に資源物の回収や清掃ボランティアに参加しており、地域との関わりを積極的に深めている。また、法人独自の取り組みとして措置外児受け入れ事業を定員の範囲内で実施するほか、長崎県里親センター（すくすく）、市町村からの受託事業（ショートステイ・トワイライトステイ）、一時預かり事業、地域行事への参加とオータムフェスタを通じた交流行事の開催といった地域貢献活動は高く評価できる。

#### 3. 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障

職員は子どもの年齢や発達に応じて日常的に子ども達の遊びや学びの機会に加わり、運動や文化など子ども達が好きなことや打ちこめることを一緒に探し経験を促している。施設の学習室ではパソコンを利用した学習ができる環境を整え、中学生及び高校生はボランティアによるピアノ指導や学習支援のほか、必要に応じて外部の学習塾を利用でき、可能な限り子どものニーズに応えている。

### ◇改善を求められる点

#### 1. 子どもや保護者等に事業計画を周知し理解を促す取り組み

子ども会等を通じて年間の行事計画を示し話し合う機会を持っている。但し、事業計画を保護者等に周知しておらず、内容の理解を促すための取り組みは十分ではない。事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなど子どもや保護者等がより理解しやすいよう工夫し、子どもや保護者に対して周知を図る取り組みに期待する。

#### 2. 職員一人ひとりの育成に向けた取り組み

「目指す職員像」を職員に示し、自己評価への取り組み状況の評価が行われているが、職員一人ひとりの目標管理のしくみは構築していない。今後、例えばキャリアパスを参考に目標達成水準を示すなど、職員が自らのキャリア形成に向けた目標設定ができるしくみを構築することが望まれる。また、施設の運営方針等を踏まえた目標設定の工夫や、各職員の中長期的なキャリア形成に繋がるような今後の取り組みを期待する。

#### 3. 性に関する教育

各ユニットでは個別に子どもと性に関する話をする機会を設けているが、施設全体で性についての子どもの年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用するまでには至っていない。職員も含めた性への正しい知識を深めるためにも、必要に応じて外部講師を招いて性をめぐる諸問題への支援や学習の機会を設けるなど、今後の具体的な取り組みに期待する。

## ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

事業計画の周知は、計画の全てを子どもや保護者に対し周知することは困難だが、施設の広報紙等を通して周知可能な項目だけでも載せるようにしていきたい。性教育については、外部講師による講習を考えていきたい。

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>ホームページに理念を「子どもがまんなか 家族を支えるみんなの輪」と謳い、「私たちは、一体となり子どもと家族を尊敬し、子どもの最善の利益を尊重しながら、関係機関や地域の皆さまと和して輪になって、子どもの育ちと家族の子育てを支えます。」と示し、目指す方向やその考え方を読み取ることができる。理念・基本方針は職員が入職した際や、年度初めに施設全体へ周知している。今後、理念や基本方針は子ども達にも分かりやすい資料を作成するなど工夫し、周知を図ることを期待する。</p>	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>児童養護協議会に参加して情報を収集したり、国が示す社会的養育や新たに策定された「長崎県社会的養育推進計画」など施設経営を取り巻く新たな動向を踏まえ、施設の「中・長期運営計画」の見直しを図りつつ、ユニットケアの充実強化、施設の小規模かつ地域分散化、高機能化、多機能化及び地域支援の拠点化の取り組みを進めることとしている。施設長は職員会議等を通じて経営状況を職員に伝えている。今後、地域の各種福祉計画の策定動向や地域における潜在的に社会的養護が必要な子どものデータを把握・分析することが望まれる。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

施設経営に係るコストの把握・分析を定期的に行い、具体的な課題や問題点を明らかにしている。具体的な課題や問題点は職員会議等を通じて共有し、職員がコスト意識を持って従事するよう努めている。今後、抽出した経営課題の解決・改善に向け、具体的に取り組むことを期待する。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

中・長期運営計画では「新しい社会的養育ビジョン」「長崎県社会的養育推進計画」のもとで家庭養育優先原則と地域の社会的養育の推進を図り、子どもの最善の利益を実現する基本的方向性を示している。今後、具体的な養育・支援に関する中・長期の事業計画や中・長期の収支計画の策定とともに数値目標や具体的な成果等を設定し、実施状況の評価を行えるよう取り組むことが望まれる。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

事業計画は「児童養護施設運営指針」の社会的養護の理念に基づき策定している。事業計画は中・長期計画を反映した内容を示し取り組むべき実施事業を具体化している。今後、事業計画に数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行えるよう取り組むことが望まれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画はあらかじめ定められた時期・手順に基づいて作成し、職員会議等を通じて職員に周知することで理解を促している。今後、事業計画は職員等の参画や意見集約・反映のもとで策定するとともに、職員へ十分な理解を促し、実施状況の把握や評価・見直しを適切に実施できるよう取り組むことを期待する。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子ども会等を通じて年間の行事計画を示し、話し合う機会を持っている。但し、事業計画を保護者等に周知しておらず内容の理解を促すための取り組みは十分ではない。事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなど子どもや保護者等がより理解しやすいよう工夫し、子どもや保護者に対して周知を図ることが望まれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者  
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎年、全ての職員が関わり自己評価を実施している。自己評価はグループリーダーが取りまとめて課題を抽出し、養育・支援の質の向上に向けて意見を交わし組織的に取り組んでいる。また、定期的に第三者評価を受審し、その結果を分析・検討する仕組みを構築している。事業報告書にも第三者評価結果を踏まえた見直し・改善について記載し、施設全体に周知を図っている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

自己評価は全ての職員が参画して行っている。自己評価で抽出した課題は職員に周知して共有を図り、業務の見直しや改善に向け取り組んでいる。今後、改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行うことを期待する。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長の役割と責任は職員業務分掌表に明記し、職員にも周知を図っている。施設長が不在の場合は副施設長へ権限委任することを明確にし、職員から理解を得ている。施設長は令和元年に着任し、施設広報誌に「子ども達みんなが、今もこれからも安心して生活できて、幸せであることを実現していくことだ」として考え方を表明している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長は遵守すべき法令を正しく理解するために、全国児童養護施設協議会や社会的養護に関する各種会議へ参加し、理解を深めている。職員に対して倫理綱領の読み合わせや虐待防止委員会での不適切な関わり事例の共有などのほか、定例会議等を通じて遵守すべき法令等についての十分な理解を促している。福祉分野以外の関係法令についても把握・認識し、施設全体で法令遵守に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長は養育・支援の質の向上に意欲を持ち、ケース検討会、職員会議、虐待等防止委員会、個別ケースカンファレンス等を通じたワンポイント講話のほか、職員との個別面談など様々な機会を通じて職員との意思疎通を図り、職員の子どもに対する関わりを振り返り、意識の統一にも繋げている。また、遵守すべき法令や社会福祉の動向を理解し、副施設長とともに強いリーダーシップを図り、職員の模範となるよう自己研鑽に励むことで専門性の向上に努めている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

施設長は経営の改善や業務の実効性の向上に向けて人員配置や環境の改善に取り組み、有給休暇の取得や勤務シフトへの配慮、ICT化など具体的に行っている。今後、施設の多機能化や高機能化を目指すことが中・長期運営計画からも窺え、更に取り組みを進めていくためにも専門職の確保に向けた積極的な取り組みに期待したい。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者  
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ユニットケアの充実強化や施設の小規模かつ地域分散化、高機能化、多機能化及び地域支援の拠点化の取り組みを進めることとし、大学等での求人募集など福祉人材の確保や育成の取り組みを進めている。児童相談員・保育士・個別対応職員・家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員・心理療法担当職員(認定心理士)などの必要な専門職や各種加算職員を配置するとともに、職員の経験年数や階層に応じて外部研修や寮内研修に参加しており、研修内容は職員間で共有を図っている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

期待する職員像を「共感する職員・自分を愛し、周りの人を尊敬できる職員・謙虚に学ぶ職員・主体的に働き、誇りある職員・思いやりを持ち助けあう職員」と明示し、職員が目指すべき姿を明確にして職員の能力向上のための取り組みが行われている。施設長との面談や意向調査を通じて職員の意向・意見を把握している。今後、職員一人ひとり専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度を評価するしくみを構築し、具現化することを期待したい。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

職員へのストレスチェックや健康維持・管理にも配慮し、毎月衛生委員会を開催し環境改善を図っている。有給休暇や勤務シフトへ柔軟に対応するなど職員のワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。「期待する職員像」を明示し、職員意向調査や上司との面談により意向を把握することで職員の意欲向上と心身の健康に努めている。今後、福祉人材の確保・定着の観点から、施設の魅力を高める取り組みや働きやすい職場づくりに関する取り組みを更に推進することを期待する。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

「目指す職員像」を職員に示し、自己評価への取り組み状況の評価が行われているが、職員一人ひとりの目標管理のしくみは構築していない。今後、例えばキャリアパスを参考に目標達成水準を示すなど、職員が自らのキャリア形成に向けた目標設定ができるしくみを構築することが望まれる。また、施設の運営方針等を踏まえた目標設定の工夫や、各職員の中長期的なキャリア形成に繋がるような取り組みを期待する。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

施設が目指す養育・支援の方向性が読み取れるよう、「養育の視点」「目指す職員像」「育てる子ども像」を職員に示している。研修会参加計画表を策定し、施設内外の研修に参加する機会を設けており、職員一人ひとりの経験年数や階層に応じて初任者研修・リーダー研修・基幹的職員研修など専門研修に職員を積極的に派遣している。副施設長は職員の研修受講状況を確認し、次年度の研修内容に反映している。業務に関連する資格取得については特別休暇を取得できるよう配慮している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

新任職員をはじめ、職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTを行っている。階層別研修や職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。職員には外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。令和元年度の職員研修参加実績は、県内外を合わせ33件延べ58人の職員が参加した。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習受け入れはハンドブックにその留意事項をまとめ、実習生へ事前に配慮事項等を説明している。社会福祉士等の専門職の施設実習にあたっては学校等との連携を図り、専任の実習担当者を配置している。実習は子どもたちの生活に配慮し行っている。社会福祉に関わる専門職の育成のために施設の人材や機能を活かした取り組みを進めており、令和元年度の実習生受け入れ状況は保育実習が5校22名、相談援助実習が1校2名、小・中学校教諭免許状に関わる介護等体験学習が3校6名となっている。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページで施設の理念・基本方針、第三者評価結果の掲載のほか、苦情受付窓口やその報告・確認、第三者委員の立ち会いなど苦情解決の仕組みについても掲載している。また、苦情解決の状況についても年度における受付件数、その内容や実施した解決方法について掲載している。パンフレットや定期的に発行する広報誌等には施設の活動状況等を掲載するとともに、地域や関係機関等に配布し情報を公開している。WAMNET上においても社会福祉法人に関する現況報告書等（現況報告書、計算書類及び社会福祉充実計画）を公開し、運営の透明性を確保する取り組みを行っている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

施設運営に関わる経理規程等の各種ルールに基づき、事務経理や取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任を明確にし、職員等に周知している。外部の顧問税理士等から定期的に確認・指導・助言を得ながら監査支援等を実施し、透明性の高い適正な会計処理を徹底し、運営に取り組んでいる。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
中・長期運営計画に地域支援の拠点化に努めると明記するとともに、施設の園庭や体育館を地域にも開放し、クラブ活動やよさこいの練習、グランドゴルフ、オータムフェスタなど地域との交流を深め積極的に活動している様子が窺える。また、子どものニーズに合わせて地域の社会資源を示し、個別の買物や困難な子どもに対しては職員が同行し対応している。園庭は広く適切に整備され、子どもの友人が施設に遊びに来やすい環境づくりを行っている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】		
ボランティアの受け入れ時にはボランティア受け入れマニュアルに沿って施設の概要や注意事項等の説明を行っている。今後、思わぬトラブルや事故を未然に防ぐためにも、子どもと直接接する場面では見知らぬ人を忌避する子どもへの十分な配慮とともに、ボランティアだけでなく職員への研修等を含めた十分な準備が望まれる。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】		
子どもが通学している学校や児童相談所とは特に連携の強化に努めており、地区評議員会への参加を通して情報の共有を図っている。関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握し、連携を十分に図っている。職員が小学校では体育委員、中学校では環境整備委員の役割を担うなど協力的な取り組みが窺える。		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設の体育館をスポーツ団体が利用できるよう解放し、地域住民との交流の場を確保している。また、年度別利用状況(利用場所・件数・人数)を把握し、具体的な福祉ニーズ・生活課題に応じて地域住民が参加しやすいよう取り組んでいる。地域の要望により、有事の際の避難場所としても協力関係を築いている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域貢献として定期的に資源物の回収や清掃ボランティアに参加しており、地域との関わりを積極的に深めている。また、法人独自の取り組みとして措置外児受け入れ事業を定員の範囲内で実施するほか、長崎県里親センター(すくすく)、市町村からの受託事業(ショートステイ・トワイライトステイ)、一時預かり事業、地域行事への参加とオータムフェスタを通じた交流行事の開催といった地域貢献活動は高く評価できる。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者  
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

基本方針や理念とともに施設で定めた倫理綱領及び全国児童養護施設協議会の倫理綱領を年度初めに各職員へ配布し、子どもを尊重した養育・支援を職員が理解し実践するための取り組みを組織全体で行っている。職員が子どもの人権を擁護し人権侵害を防止するため、子どもからの相談・苦情・要望に対しては徹底した話し合いを基本とする苦情解決システムを構築している。定例会やケース検討会においても、支援における統一化や一人ひとりの子どもの状態把握に努めており、子どもを尊重した養育・支援に繋げている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

子どもの年齢に応じて個室を提供し、本人宛の郵便物は職員と一緒に開封するなどプライバシーに配慮している。入所時に子どもと保護者に説明し、肖像権等における承諾書を得るようにしている。子どもに関する外部からの問い合わせについては一切応じないこととし、監視用カメラの設備を設けるなど子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

ホームページでは施設の理念・方針、養育の視点、目指す職員像、育てる子ども像等を掲載し、施設の概要について情報を提供している。施設の見学希望者には施設の内観や外観・行事等を記載したパンフレットの配布や、質疑応答にも丁寧に対応している。また、入所中のスケジュールやルールについてのお願いとして「生活のきまり」を作成し、子どもにも分かりやすく工夫し説明している。突発的な来訪者には事故防止の観点や犯罪の危険性から丁寧に断るよう対応し、危機管理を徹底している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

養育・支援の開始・過程において、保護者用には「施設利用（入所）のお願い」、子ども用には「生活のきまり」を配付し、ふりがなを付けてわかりやすく説明している。現状では意思決定が困難な子どもや保護者への情報提供についてその伝達や説明方法等の留意事項がルール化しているとは言えないため、今後、それらを適切にルール化して運用することを期待する。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更に伴い児童相談所との情報交換や施設内ケース会議、本人の意思確認等を行い、必要な情報は定められた引き継ぎ書類に残している。退所後の相談窓口は子どもと信頼関係を構築した職員に相談できる体制を整え、子どもが安心感を得られるよう配慮している。今後、措置変更を進める各段階での留意点や引き継ぎ書作成に係る留意点などをまとめたマニュアルを定めるとともに、退所する子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記した文書を配布することが望まれる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

担当職員が個別に話す機会を設けたり、子ども会を通じて子ども達自身が意見をまとめ、必要に応じて職員会議等に諮り検討するなど、子ども達にとってより良い方向を導き出せるよう対応している。子どもへの嗜好調査を行っているが、現状では定期的に子どもの満足に関する調査は行っていない。今後、満足度に関する調査を定期的に行い、日常的に職員と子どもが共通の問題意識を持って改善する取り組みに期待する。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

施設内4か所に意見箱を設置している。受付窓口や苦情解決責任者、第三者委員、外部の相談窓口など体制と役割等について定め、施設内及びホームページ上で公開している。意見箱に入れることに抵抗がある子どもや直接職員に言えない子どもについてはアンケートを活用し、対応した内容や結果を随時報告している。今後、苦情解決の仕組みや苦情の申し出方法について分かりやすい資料を作成し、子どもや保護者へ配付し説明する取り組みが望まれる。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもには権利ノートを活用し、職員が定期的に読み合わせて施設で生活する上での権利を説明することで、子どもが意見を述べやすい環境の整備に努めている。子どもが出した意見は子ども会を通じて子ども達自身で意見をまとめ、職員会議に諮り検討している。今後、子どもや保護者等へ子どもが相談したり意見を述べたりする際に複数の方法や相手を自由に選べることを分かりやすく説明した文書を配布し、相談や意見が述べやすい環境を整備して取り組むことが望まれる。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもからの相談や意見は担当職員がその申し出を聴き取り対応するしくみをフローチャートで明示している。把握した相談や意見はユニット職員で対応したり、職員会議に報告し検討している。相談や意見を受けた際の手順等は苦情解決実施要領に定めている。今後、対応マニュアル等を定期的に見直し取り組むことが望まれる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメント実施規程を作成し、毎月開催する虐待防止委員会に諮り、虐待事例やヒヤリ・ハット事例の検討など改善や再発防止に向け組織的に取り組んでいる。ヒヤリ・ハットや事故報告は時系列でまとめ、収集した事例をもとに職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討している。危険物の管理方法も鍵付きの保管場所で管理するなど事故を未然に防ぐ取り組みを組織的に行っている。令和2年度は訪問調査時点において施設内で事故に繋がった事例はなく、日頃より安全管理の徹底に努めていることが窺える。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

衛生管理マニュアル及び感染予防マニュアルを策定し、ノロウイルス等の感染症の予防や発生時の対応手順等をまとめ、栄養士を中心として職員に周知している。また、感染症流行の時期には職員会議等で注意喚起している。策定にあたっては長崎県の指導や栄養士が参加した研修等の情報を参考にしている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

防災計画を整備し、毎月、自主的に防火訓練を実施するとともに年1回消防署立ち会いのもとで総合避難訓練を実施し、非常時に備えている。備蓄リストを作成し、人数分×3日分程度の非常食の備蓄を確保している。今後、危機的な状況に遭遇した際に損害を最小限に抑え、養育・支援を継続的に行うための事業継続計画(BCP)を作成し取り組むことが望まれる。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

養育・支援ハンドブック、施設で定めた倫理綱領、全国児童養護施設協議会の倫理綱領を職員に配布し、子どものプライバシー保護や権利擁護に関わる姿勢について明示することで養育・支援の理解に努めている。職員は施設内外の研修や施設長によるワンポイント講話を受けるなど、日常の養育・支援を研修や個別の指導等によって職員に周知している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

養育・支援ハンドブックを作成し養育・支援の理解に努めている。自立支援計画は半年毎に検討・見直しを行い、本人の意向や児童相談所の意見を聞きながら計画に反映している。就職や進学前の子どもには社会的自立を経験できるように、施設内の一人部屋を一定期間貸し切り、自活を見守り支援している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもや保護者の意向を確認するとともに必要に応じて心理療法担当職員と話し合い、アセスメントした情報はパソコン上で共有できるしくみを整えている。入所前の情報や入所後のアセスメントに基づいてそれぞれの子どもに応じた長期・短期目標を設定し、自立支援計画書を作成している。今後、アセスメントの一連の流れのほかにも他職種との合議方法など、アセスメントに関わる具体的な手法を確立することが望まれる。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自立支援計画書には長期目標及び短期目標を明示し、必要に応じてケース検討会やカンファレンスに諮り、その支援目標をもとに子どもの状況に適した支援に努めている。今後、自立支援計画の評価・見直し方法に関する手順、自立支援計画書の変更及び職員への周知方法の手順など、計画どおりに養育・支援が行われていることを確認するしくみを構築し取り組むことが望まれる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの日々の生活の様子や養育・支援の実施状況については記録のICT化を図っている。施設内のネットワークを通じて職員の誰もが記録を閲覧することができ、他ユニットの職員と部門を横断して情報共有やペーパーレス化による効率化を図ることで職員の負担軽減や標準化に繋がっている。また、引き継ぎノートを作成し、必要な情報は確実に引き継ぎ把握できるようしくみを構築している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

文書取扱規程を策定し、子どもに関する記録の管理・保管・破棄等の手順を明確にしている。また、電子データによる情報はパスワード入力により情報漏洩に努めており、子どもや保護者には個人情報の取り扱いについて説明し周知を図るとともに、職員に対しても個人情報保護に関する教育や研修を行っている。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル類を整備し職員の理解を図っている。倫理綱領には運営方針や職員の行動指針を明示し、職員としての職務及び責任の理解と自覚を促す意識づけを行っている。子どもが入所した際には児童相談所職員と一緒に権利ノートを通して子どもの権利擁護について説明・確認している。春休みには子どもの年齢に応じてユニット毎の職員が子ども達へ読み聞かせたり読み合わせを行い、権利擁護について理解を深められるよう取り組んでいる。</p>		
(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>年1回、春休みにユニット毎に職員が権利ノートを用いて年齢に配慮した読み合わせを行い、子ども達が生活の中で保障される様々な権利について理解を深められるよう取り組んでいる。子ども会を結成し、年下の子どもや障害のある子どもなど弱い立場にある子どもに対する接し方について話し合いの場を設け、子ども自身が自らの権利に対して意識が芽生えるよう取り組んでいる。</p>		

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもの生き立ちを振り返る際は子どもの知りたいと言う気持ちを尊重しつつ、年齢や発達状況への配慮、伝えるタイミングや内容などについて職員会議等で慎重に検討して職員間で共有している。ライフワークストーリーについてはケースにより児童相談所と相談したり、十分な連携を図り行っている。子どもへ事実を伝えた後には子どもの変容等を把握し、話を聞いたり見守りを行うなど適切にフォローを行っている。子どもの成長記録のアルバムについては必要に応じて職員と一緒に生き立ちを振り返ったり、退所時に持たせるよう配慮している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

毎月、被措置児童虐待等防止委員会要綱やリスクマネジメント実施規定を基に被措置児童虐待等防止委員会を開き、子ども間・職員と子ども間で不適切な関わりや対応とならないよう振り返りを行っている。毎年、職員は自己評価を行うことで適切な養育・支援を行っているのか振り返りを行うほか、全国社会福祉協議会によるチェックリストを用いて人権擁護・人権侵害の確認を行うなど被措置児童虐待等防止に努めている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員と子どもが共生の意識を持ちながら生活全般についてともに考え、子どもが主体的に自らの生活について検討する意識を持てるよう、日頃から子ども会で話し合いを行うことで快適な施設生活に向け取り組んでいる。また、子どものお金の使い方について、小学生は職員と一緒に買物をしたり、中学生・高校生は自分で買物をする事によって相場を知るほか、年齢に応じて小遣い帳を付けたり通帳を使って貯金をすることで自己管理できるようにするなど、日常生活において金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの入所前、入所後の情報を児童相談所から家庭支援専門員を中心に情報を把握するとともに、施設の全体会議でどのように支援するか検討し、職員間で共通理解のもと養育・支援に配慮している。入退所に際して揺れる子どもの気持ちを汲み取り、ユニットの担当職員が個別に子どもに話を聞く時間を設けて不安の軽減を図ることや、子どもの生活の連続性を大切にして移行期の支援を行い、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう支援を行っている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの個別のニーズに沿った自立目標に向け、養育の一環として退所後の社会生活を想定し、自立支援室では子ども達が社会に巣立つ前に必要な生活知識を体験的に学べるようリービングケアを行っている。退所後はOB会など行われていないが、退所者が帰省や成人式等で来寮した際、希望があれば施設内の自立支援室で宿泊できるよう配慮している。また、退所者には行政機関や福祉機関、民間団体（一般社団法人LDLの自家便）と連携を図り、アフターケアを行っている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

### 【コメント】

職員は子どもに寄り添いながら子どもの表出する感情や発する話をよく聞くことで子どもを理解し、課題に向き合うことで子どもの行動や行為の背景にある心理的課題の把握に努めている。職員は中学生・高校生が表出する感情や言動を受け止めるため、時間のある夜間に悩みや相談を聞くよう努めている。また、児童相談所からの情報や生育歴、心理的課題を把握し、子ども一人ひとりの養育・支援を検討している。一方、本第三者評価におけるアンケート調査では「施設の大人の人たちから、あなたは大切にされていると感じますか？」の問いへの肯定的回答は54.3%に留まっており、今後、改善策を講じることが望まれる。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

### 【コメント】

ユニットの職員は子どもとともに日常生活を送ることを通じ、子どもの基本的欲求を受け止め信頼関係を築けるよう養育・支援を行っている。個々の子どもの発達段階や時々状況に応じて柔軟に基本的欲求を把握するよう配慮している。子どもが病気の際にはユニットリーダーに支持を仰ぎ、緊急を要する場合は主任・副施設長・児童相談所へ連絡し対応している。職員は子どもの就寝前に読み聞かせをしたり添い寝をして個々の子どもと触れ合い、子どもが愛情を感じ安心感を持てるよう支援に努めている。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

日常生活の中で、職員は子どもの力を信じ、見守る姿勢を大切にしている。職員は子どもの状況を的確に把握し、励ましや褒めること、注意や声掛けを適切に行っている。失敗の体験をした場合は子どもの話をよく聞き、どうしたら良かったかを振り返り、必要に応じたフォローとこれからの目標づくりの声掛けをし、養育・支援に努めている。今後、朝・夕の忙しい時間帯にも職員が子どもを十分に掌握、援助できるよう職員配置を検討・配慮し取り組むことを期待する。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

日常生活の中で、職員は子ども達の学びや遊びに関するニーズを把握するよう努めている。未就学児については施設内の保育所を利用し、4歳以上の幼児は子どもの発達状況に応じて2か所の幼稚園に通っている。学習室ではパソコンを利用した学習が可能であり、中学生及び高校生はボランティアによるピアノ指導や学習支援のほか、必要に応じて外部の学習塾を利用できる環境を整え、可能な限り子どものニーズに応えている。施設では子どもの学びや遊びの保障のために必要な社会資源を示し、積極的に活用している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	○

【コメント】

子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を自ら身につけられるよう子ども会の中で約束事やルールについて話し合い、その結果について職員会議やケース会議で検討して子ども達に報告し、生活する上で守るべき決まりや約束事を一緒に考え習得できるようにしている。ネットトラブルやSNSに起因する犯罪の危険性に関する県のメディア安全指導や県警の講習のほか、県こども家庭課主催の講習を受講し、子ども達がインターネットやSNSに関して知識が身につくよう取り組んでいる。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ユニットの台所やホールは明るく掃除が行き届いており、清潔感のある空間となっている。ユニット内の異年齢の子ども達が職員と一緒にテーブルを囲むことで楽しく食事ができ、子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。月2回の調理実習ではユニット毎に献立を決めて子どもが買物に行き、職員と一緒に食事を作ることで基礎的な調理技術を習得できるよう取り組んでおり、全ユニットが同じ献立を用いた実習も行っている。子どもが罹患した際などは職員が健康状態に配慮した食事を提供している。食事アレルギーを持つ子どもには代替食を提供している。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

画一的な衣生活にならないよう一活購入や一律支援ではなく、可能な限り子どもの個性や好みに合った衣類を購入できるよう配慮している。特に高年齢児には衣類を自分で選び購入できるような機会を確保している。衣類が汚れた場合などはすぐに着替えたりTPOに合わせた服装ができるよう子ども一人ひとりに対して十分な衣類を確保している。子どもの個性を尊重しながら適切な身だしなみを保持し、服装を通じた自己表現ができるよう支援している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

異年齢による小規模ユニット制を整え、家庭的な雰囲気の中で養育・支援を行う環境づくりを行っている。各ユニットでは子ども一人ひとりの居場所を確保し、子どもにとって居心地良く安心して生活できるよう取り組んでいる。食堂やホール、共有スペースには掃除当番表を貼ることで子ども達が自ら掃除し、整理整頓や掃除等の習慣が身につくよう取り組んでいる。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

子どもは定期的に嘱託医による健康診断を受けており、一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理を行っている。受診や服薬が必要な子どもについては医療機関への通院や薬の受け取りを行っている。今後、隣接する乳児院の看護師が参加する衛生委員会の機会を活用し、医療や健康面に関する学習や知識を深める機会に繋げるなど、具体的な取り組みに期待する。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	c
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

各ユニットでは個別に子どもと性に関する話をする機会を設けているが、施設全体で性についての子どもの年齢や発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用するまでには至っていない。職員も含めた性への正しい知識を深めるためにも、必要に応じて外部講師を招いて性をめぐる諸問題への支援や学習の機会を設けるなど、今後の具体的な取り組みに期待する。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

行動上の問題を生じやすい子どもの特性等についてあらかじめ職員間で情報を共有・連携し、子どもと一緒に振り返りの時間を設けるなど継続的な支援に努めている。ケースによっては児童相談所や専門医療機関等の関係機関とも協議を行い、事態改善に向け取り組んでいる。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心となり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子ども間の暴力やいじめ、差別が施設内で生じないよう毎月の虐待等防止委員会でヒヤリハット事例を検証し、問題の発生予防に努めている。また、子ども達にいじめに関するアンケート調査を行い、ユニット毎に職員と一緒に話し合っている。子ども会では年齢に応じたいじめや暴力に関する研修や動画を視聴するなどいじめ等の発生予防に繋げている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合は施設長が中心となり全職員が一丸となり適切に対応できる体制を整え、予防策や発生した場合の要因の把握、その後の対応策や問題克服に向けて施設全体で取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

心理的ケアが必要な子どもに対する支援について、自立支援計画に基づく心理支援プログラムの策定とプログラムに基づき施設内心理療法室で心理士による面談やセラピーを実施し、専門性を持った支援を行っている。必要に応じて児童相談所と連携し、児童相談所の心理療法担当職員によるカウンセリングを行ったり、対象となる子どもの保護者へ定期的助言・援助を行っている。現在は心理的な研修やスーパービジョンが不足している現状にあり、今後の取り組みに期待したい。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

静かに落ち着いて勉強ができるよう個別スペースや図書室、学習室を利用する等学習のための環境を整備し、子どもの学習習慣が身につくよう配慮している。子ども一人ひとりのニーズに応じてピアノ講師のボランティアや家庭教師、地域の学習塾など活用している。コロナ禍のため、毎日登校前に健康観察表へ体温測定・健康状態を記帳し、下校後は職員と一緒に連絡帳を確認して学習支援を行っている。障害のある子どもの特別支援学級や特別支援学校への通学については児童相談所、学校関係機関や保護者と話し合って決定し、通学支援を行っている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもの進路について自己決定ができるよう子どもに判断材料を提供するとともに、子どもの意向を尊重しながら保護者にも進路について面談する機会を設けて意向を確認し、自立支援計画にも載せて各機関と連携して支援を行っている。高校卒業後も進学を希望する子どものため、本人の望む進学実現に向けて進学校や奨学金などの様々な情報を提供し支援している。現在、大学生の措置延長など、進学や就職した子どもの不安定な生活が予想される場合は必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

職場体験や職場実習を通じて社会の仕組みやルールについて子どもと話し合っている。アルバイトに関しては学校の許可を得て行っており、成績に支障がなければ子どもへアルバイトを奨励している。また、専門学校の各種資格取得を積極的に奨励し、自立へ向けて社会経験を促している。子どもが仕事の内容や自分の適性を知る機会としてアルバイトを活用し、社会経験を積んでいけるよう実習先や体験先の開拓するなど今後の取り組みに期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

保護者・家族と子どもの関係調整については支援方針を明確にし、家庭支援専門相談員を中心に相談窓口を設けて支援体制を整えている。家族には子どもの成長をともに考え、協力し合い、常に相談に応じて信頼関係を築けるよう努めている。職員は外出・外泊後の子どもの様子を観察することで不適切なかかわりの発見に努めており、子どもの意向にも注意を払い確認している。保護者には子どもに関する学校行事や地域の行事、施設行事予定を随時知らせることで、保護者から行事の参加や協力が得られるよう取り組んでいる。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子関係の再構築に向け、家庭支援専門相談員を中心にケース会議等を通じて改善すべき課題を諮り、親子関係再構築のための支援方針を明確にして施設全体で共有し取り組んでいる。親子生活訓練室を活用し家族との面会時間をゆっくり過ごしたり保護者が宿泊できる環境を整え、親子関係の修復や養育力の向上に繋げている。児童相談所等の関係機関と密接に連携し、面会・外出・一時帰宅・家庭訪問を行うなど、家族との関係の継続・修復に取り組んでいる。